

# 椿三兄弟 特典SS

## 【長男・優一郎】

わたしは、何をするために来たのか。どうしてここに居続けるのか。

……ああ、もうなにも、かんがえられない。

＊＊

「はあつ、んっ」

「まだ欲しいのか？　貪欲な女だ。ああ、そうか。今日は排卵期、だからかな」

ぶちゅんぶちゅんと、膣ちつの中で愛液が押しつぶされる音が何度も何度も鳴らされて、わたしは何度も何度も狂ったように頭を振る。ずんずんと力強くナカを圧迫されるたびに、押し出されるように声が漏もれてしまう。こらえなければと思えば思うほど、容赦なくピストンは続く。

「はっ、恐ろしい、締め付けだ。これでは、間違つて、ナカに、出してしまいそう、だっ」

「やあつ」

「ふつ、嫌がるふりだけは、相変わらずうまい」

伏せた顔を枕に擦り付け、激しいピストンと淫<sup>みだ</sup>らな声を吸収させる。聞かれないようにしなければ。それだけを何度も頭の中で流し続ける。

「んんっ、ふうっ、はあん！」

「これで満足か？ まだ足りないのか？」

何をされても、どこを責められても、わたしの体は素直に喜んでしまう。何度も重ねてきた行為で、墮落と快楽のどろりとした

甘さを、覚えてしまった。

「も、もうっ、だめっ、あああ」

膨れ上がりすぎた淫欲に抗<sup>あらが</sup>えず、絶頂へと駆け昇ろうとしたところで、熱杭<sup>ねっくい</sup>が引き抜かれてしまった。

「っあ……」

ひくひくとナカが震えてしまう。イキかけていたから？ さつきまであったものを求めて？

ぽっかりと空白になった場所は、せつなくて苦しくて、目尻が生暖かく濡<sup>ぬ</sup>れてしまう。

乱れた髪の毛を梳<sup>す</sup>くように、温かで大きな手が頭を優しく撫<sup>な</sup>でていく。

「泣くほど欲しいのか。淫乱な女だ」

うつ伏せだった体をゆっくりと仰向けに倒され、覆いかぶさってきた顔を見上げても、視界はぼやけていて、彼の表情から意図を汲<sup>く</sup>むことはできない。

チュツと音がして、目尻にキスが落とされた。

「ここでやめたら、どうする？ やめてほしかったのだろう？ それとも、目的が果たせず、困るのかな？」

髪の毛をすくっていた手のひらは頬を包み、それから首元をなぞって、胸をやんわりと掴んだ。

「選ばせてやろう、たまには」

指先で胸の尖りとがをキュツとつねられて、ビクンツと体が小さく跳ねる。内腿うちももに力が入ったけれど、それを簡単に割りさくように足が入ってきて、大きく広げるようにして体を密着させた。

「んっ、あん」

ぬちぬちと、音が立ちはじめ。まだなお硬い熱杭が、蜜を溢れあふさせる入口をなぞるように動いている。

「さあ、どうする？」

ビリビリと鼓膜から体の芯まで貫くような低音ボイスが、甘やかに、毒を染み込ませていく。

耳たぶをジュルリと吸われ、胸の先を強くしごかれ、熱杭が意地悪く蜜穴へ分け入ってくる。

「つ、ふう……ん、お、おねがい、しますっ」

「それだけでよかったのか？」

「っあ、ゆ、優一郎さん、お願いっ、いじわるしないでっ」

「っふ、まだ正直に言えないのか」

ぐりつと、襖ひだを搔かくように熱杭が埋め込まれて、声にならない  
悲鳴を上げてしまった。

奥まで穿うつ杭くいに、仰のけ反のった体はビリビリと痺しびれたままかたまる。

「さあ、どうしてほしい？ 私にしてほしいことが、あるだろうか？」



ぐっぐつと、最奥に押し込むような動きに、また涙が滲にじむ。  
この涙のわけを、考えないよう、気付かないように、しなければ  
いけないのに。

「……お願い、優一郎さん、欲しいの、優一郎さんがっ」

大きな手のひらが両頬を包み込む。誰もがきつと欲しがるその  
端正な顔が、甘くほどけていく。

「よく、言えた」

ゆっくりと近付いてきた唇が優しく啄ついはんできて、それから舌が

ぬるりと入り込んできて、ひとつひとつ確かめるように齒列をなぞって、そして舌を擦り合わせて。

「んんっ」

ゆっくりと動きはじめた腰に、全身の毛穴が広がるほどの快感が弾けた。

強火のまま燻<sup>くすぶ</sup>っていた体は、呆<sup>あっけ</sup>気なく絶頂へと駆け昇る。

腰の動きに連動するようにキスも荒々しくなり、ふいに離れてしまった唇の端からは、お互いの欲にまみれた呼気と喘ぎ声しか漏れない。

「ううっ」

絶頂を迎えた瞬間、抜き取られてしまった。お腹に白濁を散らす優一郎さんは、なにかに苦悩するような表情で。わたしまで錯覚してしまいそうになる。

排卵日じゃなければ。いや、排卵日でも、もう。

ああ、考えちゃだめ。これ以上は。

「まだここにいればいい。君の気が済むまで、私が相手をしてあげよう」

わたしの意思なのか、貴方<sup>あなた</sup>の意思なのか。ふたりでここに留まるのは、誰の望みなのか。